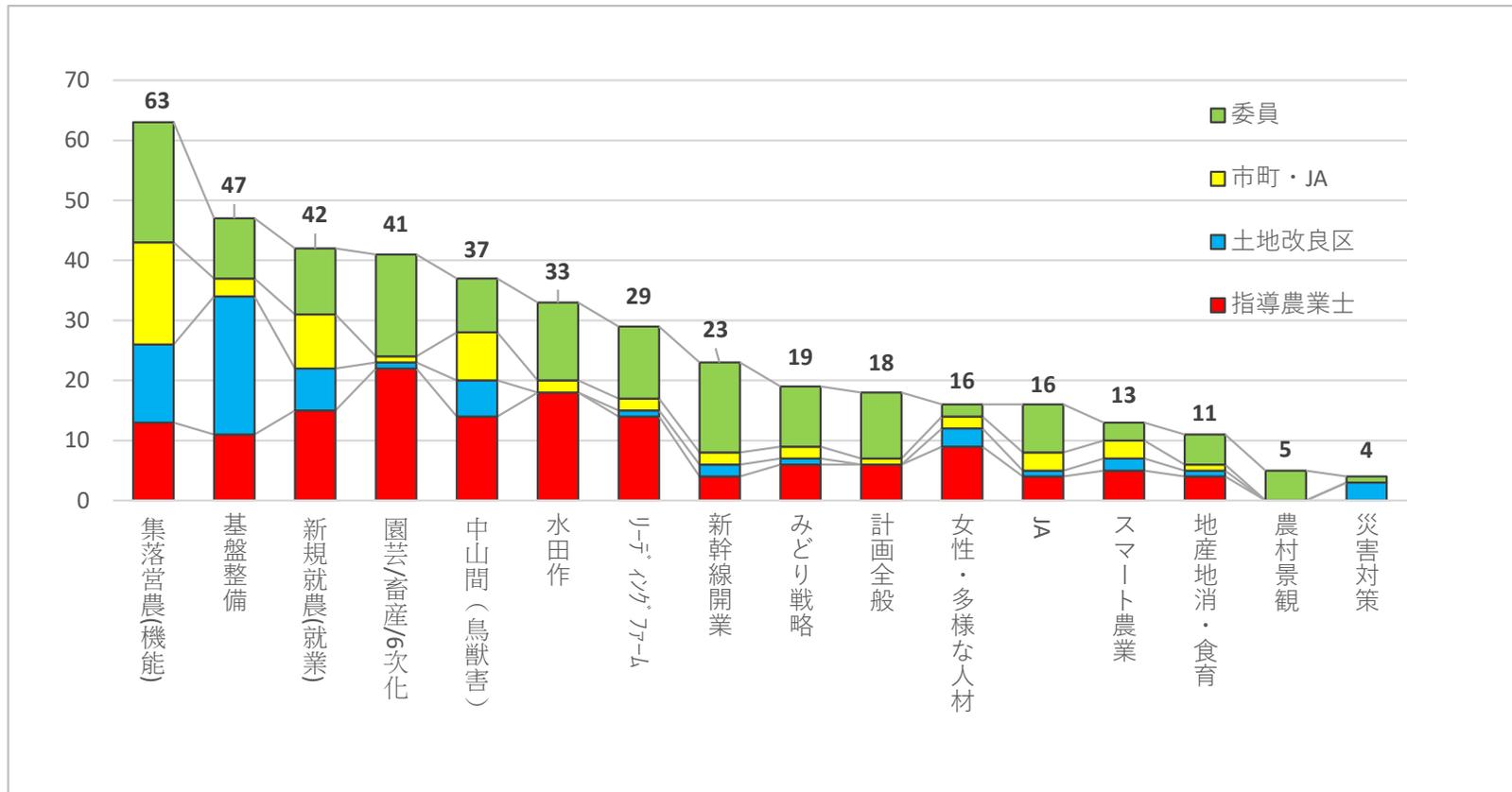


# 次世代へつなぐ、希望あふれるふくいの食・農・環境計画（仮称）

<福井県農業基本計画【2024～2028年】>

## 農業基本計画に関する意見聴取

指導農業士会（1月） 29名（指導農業士）  
 第1回検討会（5月） 16名（委員）  
 意見交換会（8月） 58名（指導農業士、土地改良区、市町、JA）  
 計103名（417の意見）



項目	方向性
<b>リーディングファーム*</b> ※売上1億円を超える経営体	経営相談所の強化、新規部門（園芸・加工・販売）導入への支援、雇用確保（誘致・育成・定着）
<b>スマート農業</b>	水田農業における実装の加速化、新分野の実証・導入（経営、園芸、中山間、生育・市場予測、鳥獣害）
<b>人材確保</b>	人材誘致の強化、ふくいモデルの全県展開、嶺南地域の新規就農支援（果樹、観光農園）、女性活躍の場の創出、農福連携の拡大
<b>水田作</b>	2年3作の磨き上げ（気候変動に対応した生産、マーケットイン視点での生産・需要開拓）
<b>園芸</b>	園芸カレッジ+園芸タウンの推進、価格の安定（契約栽培、直売所等販路の多様化・流通コストの削減）、機械化・大規模化
<b>畜産</b>	キャトルステーション・畜産新規就業者育成施設の設置、オリジナルブランド畜産物の育成（福地鶏若鳥）、鶏卵の安定供給
<b>基盤整備・防災減災</b>	超大区画や中山間地（緩法面）基盤整備モデル、水管理施設自動化、田んぼダムの推進
<b>集落営農・集落機能</b>	地域計画の策定、法人化、人材（リーダー、作業員）の誘致・育成・定着、JAによる経営計画策定代行等、集落住民の農業参画への意識醸成
<b>中山間・鳥獣害</b>	モデル事例の横展開、農家のアイデンティティの高揚、地域コミュニティの復活、都市住民との交流（体験農園、観光農園、農泊）、地域にあった品目の選定、鳥獣害対策の効率化、鳥獣害指導體制の強化
<b>新幹線・ブランド化</b>	新幹線駅前・あわら温泉でのPR・イベント、駅発着型農遊ツアー、観光・体験農園の整備、有名レストラン等トップ層へのプロモーション
<b>地産地消</b> （食・農・環境意識醸成）	地産地消意識の醸成（消費者を巻き込んだイベント、地場産学校給食の供給体制の構築、直売所や地元スーパーでの地場産農産物の販売拡大）
<b>みどり戦略</b>	有機モデルづくりと横展開、技術開発・販路開拓、消費喚起

# 次世代へつなぐ、希望あふれるふくいの食・農・環境計画 (仮称)

<福井県農業基本計画【2024~2028年】>

## ふくいの農業・農村の現状

新型コロナ

ウクライナ情勢

人口減少の加速化

低い食料自給率

災害の頻発化・激甚化

円高・物価高騰



トップレベルの基盤整備

農地集積・規模拡大

スマート農業の普及

農村人口や農業者の減少

農村コミュニティの低下

## 新たな動き

新幹線福井・敦賀開業

(2024年3月16日)

中部縦貫自動車道開通

(2026年春 大野-油坂開通予定)

+

SDG s の浸透

(2015年採択)

みどりの食料システム法施行

(令和4年7月)

## 新たな考え方



・農業に携わる人 3万人、福井県の人口 76万人、日本の人口 12,000万人

▶ 少数派の農業に携わる人だけではふくいの農業・農村の課題解決は困難!

▼ (これまで) 産業政策+地域政策+ (これから) ふくいを訪れる人々・農業に携わらない県民への政策 ▼

大規模農家、新規就農者から兼業農家まで、水稻、園芸から畜産まで、様々なプレーヤーを育成し、ふくいの農業の長所、ふくいの農村の魅力さをさらに伸ばすとともに、新幹線開業等のチャンスを捉え、新たにふくいを訪れる人々、ふくい県民を巻き込んだ多面的な政策を展開



次世代へつなぐ、希望あふれるふくいの食・農・環境を実現し、  
農業者・農村に住む人々のアイデンティティを高揚!



# 次世代へつなぐ、希望あふれるふくいの食・農・環境計画（仮称）

<福井県農業基本計画【2024～2028年】>

## 目指す姿

次世代へつなぐ、希望や魅力あふれるふくいの食・農・環境を実現し、  
県民やふくいを訪れる人々を巻き込み、農業者・農村に住む人々のアイデンティティを高揚！

## 施策の体系

1

### 4K農業の展開

（希望あふれる・カッコいい・稼げる・感動）

<農業者>

- ① 希望あふれる、次世代を築く担い手の育成
- ② ふくい農業をけん引するリーディングファーム※の育成
- ③ ふくい農業をカッコよくするスマート農業
- ④ 稼げるふくい農業の展開



2

### 人々の笑顔があふれる ふくいの農村づくり

<農村住民>

- ① 農村コミュニティの活性化
- ② 集落営農の次世代継承
- ③ 中山間地域の農村経営を守る基盤の強化
- ④ 農村環境を守る鳥獣害・防災減災対策



都市と農村との交流  
による共生

3

### ふくいの食・農・農村 の思い、憧れの醸成

<ふくいを訪れる人々>  
<県民>

- ① 新幹線で行きたくなるふくいの魅力ある食・農・農村
- ② 豊かなふくいの食・農の理解促進
- ③ みどりの食料システム戦略による環境に優しい農業の推進



交流人口が増え、  
農村が活性化

※ 売上1億円を目指す農業法人

## 1 4K（希望あふれる・カッコいい・稼げる・感動）農業の展開

※ 1 暗渠パイプを使った給排水管理

### ① 希望あふれる、次世代を築く担い手の育成

#### (1) ふくいモデルの全県展開

- ・コーディネーターの設置や農地・住宅・里親農家の確保、就農プラン作成支援など、市町と連携した新規就農者の受け皿づくり〈ふくいモデル〉
- ・インキュベーション機能（レンタル施設・圃場）の充実、就農者を受け入れる「園芸タウン」を拡大
- ・園芸や畜産の新規就農を強化

#### (2) 就農・就業者の誘致と定着

- ・農業法人や市町などの県外誘致セミナーへの参画、園芸カレッジ研修生と水稻農業法人のマッチング、様々なプレイヤーの交流ネットワークの構築

#### (3) 女性や障がい者など多様な担い手の活躍

- ・農業法人への女性の参画促進、生き生きと活動する農村女性のアイデアを実現
- ・障がい者を受け入れる農業インターンシップの開催、スマート農機導入事業などに女性、農福連携を優遇

### ② ふくい農業をけん引するリーディングファームの育成

#### (1) リーディングファームの経営発展を支援する機関の整備

- ・生産から販売、事業拡大まで複数の専門家によるコンサルティング体制を整備

#### (2) リーディングファームの人材確保・育成

- ・農業法人や市町等の県外誘致セミナーへの参画（再掲）、園芸カレッジ生と水稻農業法人のマッチング（インターンシップ）（再掲）

### ③ ふくい農業をカッコよくするスマート農業

#### (1) 水田農業分野の実装を加速化

- ・若者や女性向け実演・研修会、スマート農機の導入支援、GPS基地局の機能強化

#### (2) 園芸や畜産など新分野での開発・実証・導入

- ・県民衛星「すいせん」を活用した生育診断、データアナリストによる施設園芸の環境データ分析・指導、AIカメラを活用した家畜管理システム

#### (3) スマート農業に対応した基盤整備の推進

- ・超人区画化（2ha以上区画）や最新技術の導入（自動給排水栓、地下かんがいシステム※<sup>1</sup>など）

#### (4) リーディングファームのアイデアを実現する技術開発

- ・試験研究と企業が連携し、アイデアを技術に組み立て

### ④ 稼げるふくい農業の展開

【水田作】・いちほまれなど暑さに強い品種の普及やさらに高温に強い育種素材の開発

- ・大麦の新規需要開拓（麦茶向けなど）、輸出専用シャインパールの生産拡大・販路開拓

【園 芸】・水田農業経営体の園芸導入による多角化（スマート農機などを活用した機械化一貫体系の確立、労働力にマッチした品目・作型の導入）

- ・新規品目での契約栽培を推進
- ・フードマイルージの低い流通へのシフト（集出荷場整備による流通の効率化、直売所や関西・中京圏流通の拡大）

【畜 産】・若狭牛の生産拡大（子牛預かり施設の整備など）

- ・新たなオリジナル畜産物の創出（福地鶏若鳥、乳酸菌ふくいポーク）

## 2 人々の笑顔があふれるふくいの農村づくり

### ① 農村コミュニティの活性化

#### (1) モデル集落の育成

- ・アドバイザーを派遣し、集落活性化に向けた話し合いをコーディネート（RMO伴走支援）
- ・中山間の多様なチャレンジ（新規部門導入、有機栽培、商品開発、新たなイベント）を応援し、モデル集落を育成

#### (2) 農村住民のふるさとに誇りをもつ意識の醸成

- ・活性化研修会や優良事例の紹介、集落のイベント（感謝祭など）を通じたふるさとへの意識の醸成
- ・農家が都市住民に教え、農業の楽しみが広がるふれあい農園、観光農園や通年型農家民宿、農家レストランなどの充実（再掲）
- ・地域にゆかりのある景観形成による環境緑地化（ハナモモ、ハナショウブなど）

### ② 集落営農の次世代継承

#### (1) 集落営農組織の立て直し

- ・「地域計画」「集落戦略」づくりを通じた集落の将来についての話し合い
- ・JAと連携した集落営農をサポートする機関によるカイゼン計画（作付品目・面積、作業配分）指導
- ・持続可能な組織に向けた法人化（税理士・社会保険労務士の派遣、法人化に必要な経費支援）

#### (2) 集落営農の担い手の誘致・育成・定着

- ・「OTAMESHI（お試し）」就農による就業希望者と集落営農のマッチングと田んぼ道場によるスキルアップ
- ・新たな担い手を受け入れる集落側の準備（心構え、ルールづくり）を支援

### ③ 中山間地域の農村経営を守る基盤の強化

#### (1) 地形に合った基盤整備の支援

- ・法面の緩傾斜化や水路の管路化などの管理・作業の省力化、地形に合った圃場の大区画化

#### (2) 3つの難題（KMT）の解消

- K（畦畔管理）民間受託組織の育成 など
- M（水管理）自動給水栓の導入による省力化 など
- T（鳥獣害）ICTの導入(再掲)や農福連携による見回り など

#### (3) 耕作放棄対策

- ・「営農する農地」と「粗放的に管理する農地（草刈管理、景観作物、放牧）」のゾーニング
- ・農地中間管理事業を活用した近隣経営体による条件不利地の営農支援（機械整備など）

### ④ 農村環境を守る鳥獣害・防災減災対策

#### (1) 鳥獣害対策の推進

- ・農業試験場や企業が連携し、ICT（捕獲通知システム）、ドローンや航空レーザー計測などの活用（捕獲場所の選定）、檻までおびき寄せる誘引餌など、効率的な捕獲技術の開発や実証・普及、外部専門家による地域に密着した鳥獣害対策

#### (2) 農村地域の防災・減災機能の向上

- ・土地改良施設の適正な保全管理と豪雨・耐震化対策、流域治水に貢献する田んぼダムを推進

### 3 ふくい食・農・農村の思い、憧れの醸成

#### ① 新幹線で行きたくなるふくいの魅力ある食・農・農村

##### (1) ふくいの農産物・景観のPR

- ・新幹線客へ農産物のストーリーとセットでPR
- ・新幹線駅前の農産物グルメイベントや香福の極み越前そばイベントなどの開催
- ・そばや麦秋、越前水仙畑、棚田、コウノトリが舞う里山などふくいの農村景観を情報発信
- ・有名レストラン、首都圏ホテル、高級スーパーなどでブランド農産物を売り込み

##### (2) 地域資源のフル活用・交流人口の拡大

- ・農村資源を回遊する「農遊ツアー」など商品化（農村女性グループの古民家カフェ、伝統野菜の収穫体験、地域特産加工品づくりなど）
- ・ワイナリーやふれあい農園、観光農園、通年型農家民宿、農家レストランなどの充実

#### ② 豊かなふくいの食・農の理解促進

##### (1) 地域でとれた新鮮な農産物をできるだけ地域で食べる地産地消の推進

- ・直売所や農産物集荷拠点の整備
- ・県内スーパーなどの実需者と連携した地場産農産物の購入機会の拡大
- ・学校給食での地場産農産物供給体制の構築
- ・おいしいふくいオリジナルフルーツ（ブドウ、イチゴ、ミディトマト）の開発

##### (2) ふるさとの食のすばらしさにプライドもつ農育・食育「身土不二」の推進

- ・企業や地域団体などと連携した食育の推進
- ・園芸LABOの丘で食・農の楽しみが広がる農業を体験

#### ③ みどりの食料システム戦略による環境に優しい農業の推進

##### (1) 有機モデルづくりとロールアウト

- ・特定区域（越前市）を核としたモデル展開
- ・有機農業指導員（仮称）による30ha規模以上の経営体への有機導入（申請業務など）

##### (2) 技術開発・実践と販路開拓

- ・中干し延長による水田からのメタンガス排出削減
- ・水田除草機などの機械設備の導入支援
- ・ドローンを活用した省力化（ドローン追肥など）
- ・ネット販売や直売所など環境に優しい農産物を消費者に届ける仕組みづくり

##### (3) 環境に優しい農産物の理解促進

- ・環境に優しい農産物・食品購入促進キャンペーンによる消費喚起
- ・有機・特別栽培米を学校給食で食べられる機会の創出

# 新ふくいの農業基本計画（R1～R5年）の概要

**基本理念** 「大規模な農業法人や専業農家から小規模農家まで、すべての農家が活躍できる『農業新時代』」

## 生産・販売の拡大

- (1) 米やそばの全国トップブランド化
- (2) 園芸作物に対する消費者の評価向上と生産拡大
- (3) アジアを中心とした農産物等の輸出拡大
- (4) 土地の力を活かした無農薬栽培技術の確立と生産拡大



## 農村の魅力創出・交流促進

- (5) 他産業と連携した新ビジネスの展開
- (6) 農村コミュニティの活性化と農村文化の昂揚



## 若い人材の確保・育成

- (7) 儲かる集落営農組織・若手経営者の育成
- (8) 園芸カレッジを核とした新規就農者の増大



## ふくいの食育・地産地消

- (9) 「知る」「つくる」「買う」を通じ、すべての県民が参加する地産地消の推進
- (10) 「家庭」「企業」「学校」で学ぶ食育の推進



## 本計画期間中の実績（R1～R4）

(1)・いちほまれ生産面積	(H30) 600ha	(R4/R5目標) 1,391/3,000ha
・スマート農業経営体数	—	31/40経営体
・そばの生産量	1,210t	1,012/1,900t
(2)・大規模施設園芸	16か所	22/30か所
・水田を活用した園芸面積	304ha	540/600ha
・県外販売品目の産出額	24億円	25/32億円
(3)・輸出額	10億円	18.7/20億円
(4)・有機・特裁認証①面積	235ha	225/300ha
(5)・交流人口	90万人	169/170万人
・6次産業化商品の販売額	3.3億円	4.6/5億円
(6)・園芸導入組織数	282組織	350/360組織
・農作物鳥獣被害面積	146ha	119/100ha
(7)・40ha以上の経営体数	190経営体	238/250経営体
・新規就農者数	91人/年	121/120人・年
・若狭牛	570頭	612/700頭
・ふくいポーク	2,020頭	0/3,000頭
・福地鶏	3,000羽	5,180/5,000羽
(8)・農業人材育成拠点の整備数	1か所	4/6か所
(9)・直売所販売額	36億円	46/45億円
・地場産食材使用率(学校給食)	40.5%	37.1/55%
(10)・ふくい食育推進企業登録数	18事業所	60/50事業所